

南インド通信 5月号: インドのロックダウン事情

ベンガルールよりナマスカーラ！

2021年5月下旬現在、インドは全国的なロックダウンの真っ只中にある。日本でも一時、「インドは感染者数が連日40万人越え」という報道がなされていた様子だから、こちらの危機感のいくばくかは伝わっていることだろう。掛け声先行で自粛頼みの日本の「緊急事態宣言」と違って、当地では営業できる業種や商店の営業時間も明確に規定され、医療関係や物流・配送といった「エッセンシャルワーカー」以外は即座に検挙される。2020年3月末に初めて「ロックダウン」が敷かれた際は、棒を振り上げた警官が出歩く市民を追いかけまわしたり、道端でスクワットの懲罰を命じたりといった光景もあったが、それから既に1年以上。インドの社会にはすっかり「ニューノーマル」が定着している。

2021年4月に1年ぶり2度目のロックダウンが宣言された際、特段、慌てたり騒いだりすることもなく極めて冷静な市民の対応ぶりが印象的だった。突如、初めての対応ばかりを求められた1年前は、ここまで「何もかもスマホアプリで注文できる」状態でもなかったから、間違いなくここ1年での学習効果というか進化が見られる。いわゆる「通販サイト」や、レストランの料理、生鮮食材のデリバリーなどから、せいぜい週に一回・二回くらいの頻度で宅配が届くのは数年前からの習慣になっていた。それが今やほとんど毎日、日によっては3便も5便、といったペース。そもそも店に出向いたところで目当てのものがいつでも棚に並んでいるわけではないから、「今、注文できる」在庫が手元のアプリで確認できて、百円程度で自宅に届けられるなら使わない手はない。

以上

◎過去に掲載されたレポートは、以下のサイトをご覧ください。

https://www.obda.or.jp/events/ibo_events_all/overseas-from-india